京都市基本計画策定推進本部　第１回本部会議　摘録

○　日時	平成２１年７月１０日（金）午前１０時～１０時３０分
○　場所	消防庁舎７階作戦室

西　村　総企局長　只今より「京都市基本計画策定推進本部第１回本部会議」を始めさせていただきます。

御案内のとおり，現行の京都市基本計画は，平成２２年までの１０年間を取組期間としており，期間終了後，時を移さず，次期の基本計画を策定し，新たな政策を推進する必要がございます。そこで，全庁を挙げて本格的な策定の取組をスタートさせるため，京都市基本計画策定推進本部を設置することと致しました。

本日は，その第１回目の本部会議として，新しい基本計画策定に向けての意思統一を図るとともに推進本部の体制及び次期基本計画策定の進め方について確認するという主旨で開催するものでございます。

それでは，開催に当たり，本部長の門川市長から訓示をお願い致します。

門　川　市　長　おはようございます。第１回の京都市基本計画策定推進本部の開催に当たりまして，私の思い，そして皆さんにお願いしたいことを何点かに渡って申し述べたいと思いますので，よろしくお願いいたします。

いよいよ本日から，市民の皆様と，夢，希望，責任，そして行動を共有し，未来の京都づくりに邁進するための礎となります，新たな基本計画の策定に向け，全庁挙げた本格的な取組を開始します。

今日が，新たな京都の未来のまちづくりのキックオフであります。

私は，基本計画の策定に当たりましても，常々，市政運営の基本としております，市民の皆様とともに汗をかく「共汗」と政策の「融合」が大変重要だと考えております。

これまでに，出来る限り，早い段階から市民の皆様の御意見を頂戴するために，市民１万２千人を対象としたアンケートの実施，職員自らが直接市民の御意見をお伺いする「市民共汗インタビュー」の実施，更には，京都ならではの京都市未来まちづくり１００人委員会の開催，熱心な議論をしていただいております。また，おむすびミーティング，ハートミーティングなど様々な機会を通して，現地現場の市民の声を直接お伺いしてきました。職員とのコミュニケーションも図ってきました。また，他都市にない先進的な取組として，基本計画の在り方を根本的なところから探究し，同時に，融合的な視点で京都の未来像や重点戦略の案を検討していただく

ために，様々な分野の新進気鋭の若手学者による「未来の京都創造研究会」を設置し，公募による若手職員とともに，精力的に調査研究をしていただいております。今月中には最終報告を頂戴することになっておりますが，非常にユニークな，研究者と若手職員が市民とともに知恵を絞ってきた報告を頂戴致します。

今年度は，更に未来の京都の主人公であります小中学生の夢や若者の提案の募集を行っており，既に，若者提案，マニフェストについては現時点で５００件を超える応募が寄せられております。非常に心強く思っております。

今後は，こうした取組の成果をベースにしまして，本年９月を目途に学識者や市民代表等で構成する基本計画審議会を立ち上げ，基本計画を知恵と汗で練り上げていきます。同時に，京都市独自の斬新な取組として，概ね３５歳以下の若者たちで構成する「未来の担い手・若者会議　Ｕ（アンダー）３５」を設置し，若者ならではの大胆でしなやかな発想による審議会への提案や，計画策定の協力を得て参りたい，このように考えております。

また，前回，京都市が政令指定都市で初めて策定致しました各区の独自の基本計画についても，次期基本計画と同時に新たな計画を策定致します。各区におきまして，既に，地元とのワークショップによる円卓会議の実施など，区長を先頭に，第一線の区役所の職員が情熱を傾けて，区民の皆様と未来の区づくりに熱い議論を行っていただいております。非常に地域に根差した取組ができている，市民の方からもそのような評価をいただいております。

区役所が変われば京都市役所全体が変わり，京都のまちが変わります。私はそう確信しております。区基本計画づくりについても，市全体の基本計画と十分連携しながら，引き続き，区民の皆様との「共汗」と政策の「融合」を基本に，区民と区役所が現地現場でモティベーションを大いに高め合える取組を推進していただきたい。また，区役所から本庁へ大いに刺激を与えていただき，政策が融合していただけるように，このようなことを期待しております。よろしくお願いします。

さて，京都市基本計画は１０年後の京都を「どのようなまちにするのか」，「市民の幸せをどのようにして実現していくのか」，その道筋を示すものであります。

ますます激動化する現代社会にあって，１０年後の未来図を的確に描き出すことは極めて困難とも言えます。現に，この僅か１年足らずの間にも，

アメリカの金融危機に端を発した世界的な不況や，新型インフルエンザの世界的な猛威など，本市においても即座に，そして即効性のある対応が迫られている，想定外の大きな変化や課題が出現しております。その時その時の的確な対応も求められております。

しかし，同時に，極めて不透明感の強い混迷の時代であるからこそ，未来の京都の在るべき姿，京都の選択を大局的にかつ的確にわかりやすく示し，市民と行政がしっかりと共有することが大変重要であると考えております。

本年５月に，未来の京都創造研究会から「中間報告」として，新たな基本計画は，行政計画の域を越えて，市民，企業など多様な参画主体と行政が役割分担と協働によってまちづくりを進める指針となる「共汗型計画」，共に汗をかく計画，「共汗型計画」として策定するべきとの提案を頂戴しました。私もまったく同感であります。

過去と相手は変えられないが，自分と未来は変えられる，また，未来は予想するものではなく，共に私たちが創っていくものであります。

本市は厳しい財政状況であります，また少子高齢化や人口減少など大変な課題を抱えております。しかし，ピンチをチャンスにし，市民の皆様が，「なるほど，その未来に是非向かって行きたい，行こう」と共感していただき，ともに立ち上がっていただく，行動していただけるような基本計画を作っていきたい。そこで，策定に当たっては，特に次の三点に留意して，徹底した議論をお願いしたいと思います。

まず第１点ですが，「徹底した市民参加と徹底した職員参加」であります。

未来の京都のまちづくりの主役はあくまで市民であります。京都は，町衆の自治の伝統が脈々と息づくと同時に市民の１割が大学生であります。また，若いエネルギーが満ちております。私は，生産のエネルギー，若者のエネルギーを日々，実感しております。

京都が持つ歴史的な蓄積と現代の英知を総結集し，融合するため，市民と膝を突き合わせて議論を行い，市民にも真剣になって京都の未来を考えていただき，時には市民同士の議論が大いに巻き起こるくらいに熱い議論が行われる努力と工夫を，市役所で，区役所でお願いしたいと思っております。同時に，本日を契機に，１万６千人全職員が主体的に基本計画づくりに参画し，自分自身の所管だけでなく，自分の与えられた職務としての分担だけでなく，職場の垣根を越えた京都市全体の視点による，徹底した議論を繰り広げていただきたいと思います。

不要不急の業務は徹底的に効率化する一方で，未来につながる議論は時を惜しまず，口角泡を飛ばしながら情熱をぶつけ合って欲しい，そのように思います。

２点目は，「徹底した未来志向」であります。

悲観からは何も生まれません。現代の困難の中にチャンスを見出し，明るい未来への希望を語り合って欲しい。是非ともお願いしたい。また，１０年間というスパンは人にとってはある程度長く感じられる，このように思います。しかし，都市にとっては短いものであります。施策・事業には比較的短期間で効果が得られるものもありますけども，地球温暖化対策や景観，歩くまち京都などの交通政策，更には将来を担う人づくりなど，直ぐには効果が現れにくいけども，着実な取組が京都の未来を大きく左右するものであります。基本計画づくりにおいては，夢と希望を大切にしながら，１０年先だけでなく，５０年先，１００年後の未来も視野に入れた大きな視点から既存の枠を超えた徹底した未来志向で議論をお願いしたい，そのように思います。

３つ目は，「徹底した戦略性の追求」であります。

当然のことではありますが，計画は手段であります。実現しなければ意味がありません。

熱いハートで明るい未来を描くと同時に，クールな視点で徹底した実現可能性，実現の道筋の追求についても議論していただきたい。その際には，決して縮み指向に陥ることなく，政策の大胆な融合など，誰もが納得のいく，そして，なるほどと感嘆されるような知恵の発露を期待致します。

いよいよ，本日から本格的な議論を開始します，この基本計画の策定は，地域主権時代をリードする京都市の新たなチャレンジであります。そして，京都ならではの全国のモデルとなるものが必ず出来ると私は確信しております。

以上の３点に心していただきまして，京都力の結晶として，夢と創造力に溢れた計画が策定できますよう，私自身も先頭に立って大粒の汗をかいております。ここに御出席の皆さんが徹底した議論の中心となっていただき，強力なリーダーシップを各職場で，また，市民の中で発揮していただくようお願い致します。

私からは以上であります。

西　　村
総企局長　次に，「京都市基本計画策定推進本部の体制及び基本計画策定の進め方」について，事務局から説明させていただきます。

柴　山
政企室長　それでは，説明させていただきます。お手元の資料「京都市基本計画策定推進本部の体制及び基本計画策定の進め方について」を御覧ください。

初めに，次期の京都市基本計画について，簡単に御説明致します。資料の右上「次期京都市基本計画とは」を御覧ください。

次期京都市基本計画は，まちづくりの方針を理念的に示す京都市基本構想のもと，現行計画に引き続く２回目の長期計画となるものでありまして，今日的な社会経済情勢を踏まえ，今後１０年間の京都の未来像と主要政策を明示する市政運営の基本となる総合計画でございます。

これまでと異なり，今回策定する基本計画からは，市会での議決対象となることから，平成２２年中に市会の議決を経て策定したいと考えております。

次に，計画策定の進め方についてでございます。

この基本計画の策定に当たっては，市長の訓示にもあったように，「徹底した職員参加」と「徹底した市民参加」で進めたいと考えております。

まず，「徹底した職員参加」について御説明します。資料の左側，大きく黄色で網掛けをし，「行政」と上に記した部分を御覧ください。

「徹底した職員参加」では，この「京都市基本計画策定推進本部」がその中心になることとしており，役割は大きく三つあります。

一つ目は，基本計画について庁内できっちりとした検討を行うため，融合の視点に立つ全庁を挙げた徹底した議論を行うことであります。

二つ目は，活発な審議会運営のため，審議会への審議材料の提供など適切な対応を行うことであります。

三つ目は，庁内の意思形成機関として，基本計画策定方針及び審議会答申を踏まえた計画案の決定を行うことであります。

また，その体制については，大きく三つに分かれております。

まず，本日開いているこの「本部会議」でありますが，市長を本部長，副市長を副本部長とし，本日御出席いただいている皆様を本部員として構成しております。その下部組織として，各局区等の部長級の方で構成される「幹事会と代表会議」を，更にそのもとに，各局等の部課長級の方々で構成される「分野別・局別ワーキング」を設置致します。幹事会は各局区等の庶務担当部長等で構成し，代表会議は各局等の庶務担当部長，当番区区民部長等で構成致します。局別ワーキングは，各局等で設置していただきたいと考えております。

下部組織については，当推進本部会議の調整を行う幹事会を中心に，

後ほど説明する審議会の体制に対応して取り組んでいただくこととしております。幹事会に設置する代表会議では審議会の委員会に対応して分野横断的な議論を行うとともに，部会に対応する形で関係局を中心に構成する分野別ワーキング，分野別ワーキングにおける議論のため，そして基礎資料を作成いただくための局別ワーキングを設置することとしております。詳細については，後日開催する幹事会で御説明させていただきます。

その他の職員参加としては，平成２０年９月に発足している「次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチーム」の活動や，「職員提案制度」の活用を考えております。

次に，「徹底した市民参加」の中核となる「京都市基本計画審議会」についてでございます。

この審議会は，徹底した議論で広く市民意見を吸収し，知恵と汗で計画案を練り上げることを目的としており，審議会委員を７０名以内とし，学識経験者，各種団体等の代表，公募市民など，幅広い英知を集めるために各界各層から御参画いただくことを考えております。

また，この審議会の構成として，まず，審議会としての意思決定を行う委員全員による「総会」。次に，市政の各分野における重要事項に関して，横断的に調査，審議を行うことのほか，計画の全体調整を行うことを目的とする「委員会」。専門事項を調査，審議することを目的とした「部会」を設置することとしておりまして，部会は４～５つ程度設置することを想定しております。

また，資料の下段にあるように，広範な市民参画により計画を策定するため，京都市未来まちづくり１００人委員会の提言や，市民アンケート等の各種調査結果，そして，若者や子どもからの提案事業などを通じていただいた市民の声など，多種多様な市民意見・情報を審議会に提供して計画案の御審議をいただこうと考えております。

最後に，計画策定に当たってのスケジュールについてでございます。資料の右中段に記載している「市基本計画の策定スケジュール」を御覧ください。

本日の本部会議の開催後，幹事会の開催など，庁内で計画策定に向けた作業を開始しますが，今年の９月頃に本市としての基本計画策定方針を決定するとともに，京都市基本計画審議会の審議を開始したいと考えております。

その後は審議会に設置する部会ごとに審議を進めていき，平成２２年

４月頃に第１次案，９月頃に第２次案を作成いただきまして，平成２２年１１月頃に審議会から答申をいただくことを考えております。

その後，審議会の答申を基に本市の基本計画案を市会へ付議し，議決をいただくという流れで進めることとしております。

なお，次期の市基本計画の策定に当たっては，同時期に策定される各区の基本計画とも十分に連携を図りながら進めていきたいと考えております。

以上のように，「徹底した職員参加」と「徹底した市民参加」の２つを柱に基本計画づくりを進めていくことを考えております。

西　　村
総企局長　それでは，御意見・御質問などあれば頂戴したいと思います。

荒　　木
東山区長　区役所においては，市基本計画と同様，次期区計画の策定に取り組んでおります。昨年度から広く区民の意見を聞く住民円卓会議を設置し，今年度から策定委員会を設置するなど策定に向けた取組を行っていますが，区計画と市計画の関係はこれまでどおりでよいのでしょうか。また，市基本計画策定推進本部員としての区長の役割は何でしょうか。

西　　村
総企局長　市と区基本計画の関係については，前回と基本的に同様で，同列・補完の関係としております。区の計画はまちづくりの方針を理念的に示した基本構想に基づく，各区の魅力ある地域づくりを目指した地域別計画であり，市基本計画と同列の位置付けでございます。

また，市の基本計画は広域的全市的な総合計画であり，区計画は区独自の，地域の計画であり相互に補完し合う関係でございます。

このような位置付けの下で，市の計画については推進本部，及び審議会を設置し議論する。各区においては各区で，既に行われているところもあるが，策定委員会を設置され議論をされることとなります。

また，市長の訓示にもあったように今回の基本計画づくりは徹底した市民参加と徹底した職員参加で議論をして策定致します。各区長に本部員として参画していただいているが，徹底した職員参加により策定することとしており，区長からの積極的な御意見を頂戴したいと考えております。

また，両計画は，同列補完という関係であるため，整合性のあるものとしていきたいと考えております。本部会議において，各区の計画と市の計画を十分に連携するようにして参ります。

明　石
企画監

質問ではないのですが，共汗，市民参加の担当として一言発言致します。市民参加推進条例を全国に先駆けて策定した京都市では，市民参加・協働を着実に推進している。市政の各分野で企画の段階から市民に参画していただき，共に知恵と力を合わせることで生まれるエネルギーを皆様も実感していただいていることと思います。

その最たる例は昨年度から活動している京都市未来まちづくり１００人委員会が挙げられます。委員会では市民の皆様に情熱と使命感を持って議論をいただいております。月１回のペースで実施しているが，それ以外でも市役所の関係部署にヒアリングを行ったり，テーマに関わる現地調査として，岡崎や二条城周辺に出向くなど，自主的に活動を展開されております。

京都の未来のためにボランティアで活動されている皆様の活動とその熱い議論に頭が下がる思いであります。市民の皆様と行政で自治の意識を共有し，知恵と力を合わせて共に行動することが，市長のおっしゃっている共汗であります。

新しい基本計画の策定過程においては，市民の皆様の思いを受け止める絶好の機会であります。是非とも市民の皆様と議論しながら課題を共有し，その解決に向けて一緒に汗を流しながら取り組んでいかなければならないという思いを強く感じております。

市長の訓示にもあったとおり，京都は自治の伝統が連綿と受け継がれているとともに，人口の１割を占める大学生の若いエネルギーも満ち溢れている。京都の伝統と豊富な人的財産を活かし，市民参加・協働，共汗の取組により，新しい計画を共汗型計画とすべきであります。

門　川
市　長

東山区の若手職員による区計画策定に向けた議論を見たのですが，それぞれの仕事の範囲を超えて，各学区に入って，地元の方と話をしたり，円卓会議で議論したりして熱くなっているのを見て，参加型のすばらしい計画がきっとつくられるだろうと心強く思っております。

１００人委員会の話も出たが，京都の市民力・地域力を改めて実感しました。そうした力を発掘していく過程が，上手く基本計画策定に重なればよい，と考えております。

＜了＞